

## 令和 7 年度北河内二次医療圏病院連絡会結果（概要）

開催日時：令和 7 年 1 2 月 2 5 日 場所：大阪府守口保健所

出席病院：別添一覧

### 1 地域医療構想の推進に関する意見

特になし

### 2 病院の将来プランに対し意見のあった病院とその回答

特になし

### 3 グループ別協議

**【協議テーマ：入棟退棟経路や各病院の受入れにおける課題や圏域で不足する機能等の現状を踏まえた将来に向けた病院の役割分担（機能分担）のあり方】**

#### ＜グループごとの協議＞

##### 【地域医療構想の役割分担（機能分担）について】

○課題として、医師・看護師の人材確保があり、医師については内科医が不足傾向。また、いずれの病院においても当直体制に課題があり、高度急性期や急性期では夜間・休日の救急受け入れや緊急手術の対応ができる医師の確保が困難な状況である。

○機能分担や連携は比較的順調に進められているが、急性期病院では在院日数が短縮化される中で患者の退院調整に時間を要することが課題として挙げられた。各病院とも人材不足と物価高騰により経営が厳しい状況である。地域の医療ニーズに応えるため、地域医療の役割と課題について共有し、機能分担と連携を進めていくことが必要。

○小児科については、圏域内のネットワークでも受け入れに対応しているが、精神科、産婦人科とともに、他圏域との連携も必要である。

○精神疾患患者の整形外科手術など身体疾患も診られる機能が必要である。また、今後の地域医療構想における精神病床のあり方や一般病床との連携について早期の議論が必要。

##### 【高齢者医療について】

○慢性期では、高齢者の重症化により必要なケアが増え、職員が不足する中で対応しているため、疲弊している状況。一方、在宅医療が進み、病院での看取りや社会的入院が減少する中、慢性期で重度の患者も受け入れているが、入院後すぐに亡くなるなど、在院日数が短期化し、病床稼働率は低下している。

○回復期では、包括報酬となっている中、高額な薬剤が必要な患者は受け入れにくい。退院先が高齢者施設となると、施設の質の課題もあり、また、高齢者施設との入退院における連携については広域的な課題でもある。

### <全体協議>

- 厳しい経営状況の中で、各病院とも様々な工夫をされており、北河内圏域では機能分担と病院連携が良好に進んでいる。今後、更に高齢者が増大するが、新しい地域医療構想においては、圏域におけるネットワークを活かし、在宅医療、介護の問題にも切りこんでいくことが必要。
  
- 人材確保の問題だけでなく、今後は病院の建替え問題も出てくるため、機能分担や連携を進めるべき。医師だけでなく、MSWなどの様々な職種間の連携を進めることが重要である。
  
- 将来に向け、急性期の入院医療需要が増えるとの予測がされているが、人口動態などによる予測だけでなく、急性期医療ではなく看取りを希望する患者が増えているなど、患者の受診行動の変化などの社会情勢を前提として、病院運営を検討していくことが必要ではないか。